

研修報告書

環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻

中元美緒

カセサート大学短期研修の2日目は、カセサート大学院のプレゼンテーションビデオを視聴した。タイ国内でもトップレベルの大学であり、そのスケールの大きさに驚いた。特に、学部の多様性やそれぞれの研究分野の広がりを知ることができ、自分の専門分野との違いや共通点に興味を持った。日本の大学と比較することで、教育環境や研究テーマの違いについて考える良い機会となった。

また、私たちも日本や熊本についてのプレゼンテーションを行った。私たちの班は熊本の観光について紹介し、その後のランチの時間には、タイの学生が阿蘇について興味を持ってくれたのが嬉しかった。プレゼンを通じて、異文化交流の大切さを実感するとともに、自分たちが発信する情報が相手の関心につながることを学んだ。

午後はキャンパスツアーに参加し、広大な敷地と充実した施設に圧倒された。タイ料理のランチは少し辛かったが、とても美味しかった。初日から多くの交流ができ、これからの研修がますます楽しみになった。



3日目はタイ語研修があり、挨拶や数字、フルーツの名前などを学んだ。フルーツは実際に食べながら覚えた。初めて食べるフルーツもあり、とても楽しく学ぶことができた。授業を通じて、タイ語の基本的な文法の仕組みもなんとなく理解でき、タイの友達と簡単なタイ語で会話できるようになった。

特に、一緒に食事をしているときに習ったタイ語で味の感想を伝えると、タイの友達が驚きながら喜んでくれたのが印象的だった。言葉を学ぶことで、より深く交流できることを実感し、異文化理解の大切さを改めて感じた。



4日目は Fisheries（漁業）学部を訪問した。学部の建物には多くの魚が展示され、水族館のような雰囲気だった。魚の剥製を通じて、その構造や進化の歴史について学ぶことができ、視覚的に理解を深められたのが印象的だった。

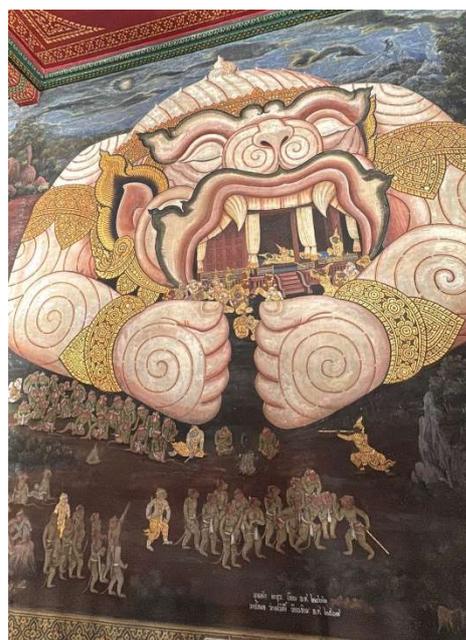
また、学生がペットとして魚を飼育できる施設や広大な池があり、多様な水生植物も観察できた。特に、持続可能な漁業や水産資源の保全に関する研究が行われており、将来的にも役立つ分野だと感じた。環境資源学を学ぶ立場として、水産分野とのつながりを考える良い機会になった。



5日目は、バンコクの有名な王宮「グランドパレス」を訪れた。金色に輝く建築や繊細な装飾が美しく、タイの歴史と王室文化の壮大さを感じた。ガイドの説明では、壁画に描かれた「ラーマキエン（タイ版ラーマヤナ）」の物語や、王宮の建築様式の特徴について学んだ。特に、エメラルド仏（ワット・ブラケオの本尊）が季節ごとに異なる衣装を着せ替えられるという習慣が興味深かった。これは、国王が直接儀式を執り行い、仏像の衣装を変えることで国の繁栄を祈る重要な儀式だという。

また、蓮の蕾に水をつけて体を清めるタイの伝統的な作法も体験した。蓮は仏教において清らかさの象徴とされ、寺院での参拝時に行われることが多い。実際に体験することで、タイの宗教や精神文化の一端に触れることができた。

ランチは、グリーンカレーやトムヤムクンなど本格的なタイ料理を楽しんだ。スパイスやハーブの香りが特徴的で、日本のカレーやスープとは違った風味を味わえた。食文化を通じて、タイの気候や生活習慣との関係を考えるきっかけにもなった。



6日目は、Social Science（社会科学）学部を訪問し、教授からタイの歴史と文化について講義を受けた。特に、アユタヤ王朝やスコタイ王朝について学び、それぞれの時代の特徴やタイの発展に与えた影響を知ることができた。スコタイ王朝はタイ最初の統一王朝であり、アユタヤ王朝はその後繁栄し、東南アジアの貿易拠点として発展したことが印象的だった。

また、タイにはメインカルチャー（主流文化）とサブカルチャー（多様な地域文化）が存在することも学んだ。例えば、バンコクを中心とした都市文化と、地方ごとに異なる

伝統文化が共存している点が興味深かった。日本でも地域ごとに異なる文化や方言があるが、タイではさらに多民族的な背景が影響していることがわかった。

今回の講義を通じて、歴史や文化を理解することが、現代の社会や価値観を知る上で重要だと実感した。今後の研修でも、こうした背景を意識しながら学びを深めていきたい。



週末を挟んで、9日目は教育学部を訪問し、タイの伝統的な花飾りであるガーランド作りに挑戦した。紫色のグローブアマランスをカットし、糸で繋いで輪を作り、最後に白いジャスミンのつぼみを付けた。これは結婚式などのお祝いの席で華を添える飾りとして用いられる。

この体験を通して、伝統文化の背景や、細部にわたる手作業の美しさ、そして創造性の大切さを学んだ。自分で手を動かすことで、タイの文化に対する理解が深まり、今後の教育や異文化交流の視点にも生かせる貴重な経験となった。持ち帰ることができなかったのは残念だったが、心に残る学びとなった。



10日目は、広大な農地が広がる Kamphaeng Saen Campus を訪問した。まず、野菜の研究を行う学部を見学し、大量の種子が保存されている様子や多岐にわたる農業研究について学んだ。その場で収穫したトマトやバジルを試食できたのは、新鮮な農産物の味や研究成果を実感する良い機会となった。

午後は再びタイ語の勉強があり、3日目よりもさらに大きい数を数えられるようになった。言語学習の進歩を感じると同時に、現地でのコミュニケーションがますます楽しみになった。こうした実地体験と学習を組み合わせることで、農業技術や言語スキルへの理解を深められた。



最終日は、タイの伝統武術ムエタイを体験した。準備運動の段階からハードで、運動不足の私には少しきつかったが、実際に動いてみるととても楽しかった。パンチやキックなど、さまざまな攻撃の技を学び、ムエタイが単なる格闘技ではなく、体力・集中力・精神力を鍛えるスポーツであることを実感した。

また、ムエタイはタイの文化や歴史とも深く結びついており、単なるスポーツではなく、戦いの技術として発展してきた背景があることを知った。実際に体を動かして学ぶことで、タイ文化の奥深さをより理解できた貴重な経験となった。



JICA 訪問

9日目と12日目にはJICAの事務所を訪問した。そこで、JICA海外協力隊が行っている具体的な活動について学ぶことができた。特に、障がいを持つ方々がパン作りやチョコレート作り、ホテルのベッドメイキングなどの訓練を受けており、その訓練が実際にどのように行われ、どのように就業へと繋がるのかを知ることができた。実際にそのベーカリーで作られたパンを購入し、とても美味しく感じた。

この経験を通じて、JICAの海外協力隊がどのように現地の人々の生活向上に貢献しているのかを深く理解し、自分自身も誰かのために、また環境のためにボランティアとして活動してみたいという強い意欲が湧いた。

フリータイム

初日や週末にはタイの友達と共に観光を楽しんだ。初日は、チャトチャックマーケットを訪れ、タイ料理を堪能した。特に印象に残ったのは、初めて食べた幼虫で、予想以上に美味しく、驚いた。

土曜日には、ワット・アルンを訪れ、その美しい建築に感動した。また、タイの伝統的な民族衣装を着ることができ、まるでプリンセスになったかのような気分を味わった。衣装はとても可愛く、たくさん写真を撮った。

日曜日はアユタヤを訪れ、ついに象に乗ることができた。これは「死ぬまでにやりたいこと」の一つだったため、とても嬉しかった。その後、アユタヤの寺院を見学し、仏像の頭がないものがあることに驚いた。このような仏教文化の背景について学び、タイの宗教や歴史への理解を深めることができた。

この一連の経験を通して、タイの文化や歴史に触れる貴重な機会を得ることができた。今後、さらなる学びを深めるために、タイの文化や習慣についても調査を続けていきたいと思う。